

第5次

周防大島町行政改革大綱

(令和8年度～令和12年度)



周防大島町

目 次

I	行政改革の継続の必要性.....	1
1	これまでの取組.....	1
2	周防大島町の財政状況.....	1
3	これからの取組.....	1
II	基本方針.....	2
1	行政サービスの効率化と質的向上.....	2
2	住民との協働.....	2
3	簡素で効率的な行財政運営.....	2
III	進め方.....	2
1	計画期間.....	2
2	推進体制.....	2
3	推進の方法.....	3
IV	具体的方策.....	3
1	行政サービスの効率化と質的向上.....	3
	(1) 職員の意識改革の推進	
	(2) 窓口サービスの充実	
	(3) 人材の育成	
	(4) 行政情報共有化の推進	
2	住民との協働.....	4
	(1) 住民との協働の促進	
	(2) 地域資源活用 of 取組	
	(3) 男女共同参画の推進	
3	簡素で効率的な行財政運営.....	4
	(1) 財政健全化の推進	
	(2) 行政評価システムの活用	
	(3) 受益者負担の適正化	
	(4) 適正な定員管理	
	(5) 公共工事等のコストの縮減	
	(6) 効率的で柔軟な組織づくり	
	(7) スマート行政の推進	
	(8) 下水道事業の経営効率化	
	(9) 病院事業局の経営効率化	

I 行政改革の継続の必要性

1 これまでの取組

本町は、平成16年の合併以降、住民と行政の協働による自主自立のまちづくりを目指してきました。

そのまちづくりを推進し、真に住民の幸せと町勢の発展を目指した改革を実行するため、平成17年12月に第1次周防大島町行政改革大綱（平成18年度～平成22年度）を策定し、以後5年ごとに新たな大綱の策定を行いながら全庁的に行政改革に取り組んできました。

全国平均上回る少子高齢化の進む本町では、地方交付税の大幅な削減により、行財政運営はさらに厳しいものとなる中で、これまでの行政改革への取組によって、町の借金である起債残高は262.2億円（平成16年度末一般会計）から157.6億円（令和6年度末一般会計）まで減少しました。また、出張所業務の郵便局への移行、DXの推進や職員研修の実施などにより、業務の効率化やサービスの質的向上を図ってまいりましたが、実施にいたらなかった課題や継続して取り組むべき課題も残されています。

2 周防大島町の財政状況

本町の財政は、令和6年度の財政力指数が0.240、経常収支比率が97.5%、実質公債費比率が12.2%で、合併による経費削減効果により財政の健全化が図られてきましたが、人口減による普通交付税の大幅な減少や増加傾向にある特別会計への繰出金が大きく影響し、依然として厳しい財政状況が続いています。

この財政の問題は、人口減少や少子高齢化の進行、公共交通などのインフラ維持、さらには住民サービスの維持・質的向上といった多くの課題と密接に結びついており、こうした課題に対応しつつ、財政基盤をしっかりと固めることで、将来にわたり持続可能な自治体運営を進めていく必要があります。

3 これからの取組

全国的に少子高齢化や人口減少により担い手の減少が進むなか、本町においても限られた人員と財源により効率的に質の高い行政サービスを継続していくためには、デジタル技術や民間の力の活用が不可欠であり、また、縮小を前提とした持続可能なまちづくりへの転換が必要になってきます。

ICT（情報通信技術）などのデジタル技術や民間の知見の活用など、新しい技術や発想を取り入れながら、将来を見据えた行政運営を行う必要があることから、第5次行政改革大綱を策定し、これに基づく実施計画により、行財政改革の取組を推進します。

II 基本方針

地方分権改革の進展や複雑多様化する行政課題に対応し、住民サービスと安定的な行財政運営を両立するために、次の視点を基本として行財政改革に取り組んでいきます。

1 行政サービスの効率化と質的向上

財政健全化の推進を図るために職員数を削減しつつ、多様化、複雑化する住民サービスの要求に応え課題に対応するため、住民ニーズを的確に把握しながら、サービスを担う職員の資質の向上や能力開発を図り、公平で公正、分かりやすく満足度の高いサービスを提供するとともに、町民への積極的な情報提供に努めていきます。

2 住民との協働

住民に身近な行政は、地方公共団体が自主的かつ総合的に広く担うようにするとともに、地域住民が自らの判断と責任において地域の諸課題に取り組むことができるようにするための地方分権改革が進められています。公共サービスの質を保ち、民間のノウハウを活用しながら効率的なサービスを提供し、多様化する住民ニーズに応えるために、住民と行政とが対等なパートナーとして連携し、お互いに支えあう協働のまちづくりを進めます。

3 簡素で効率的な行財政運営

地方交付税の削減や町税の減収など厳しい財政状況が見込まれるなか、地方分権改革の動向や地域の新たな行政需要に柔軟かつ確実に対応できる自立性を確保するため、簡素で効率的な行財政運営を行います。

そのためには職員数の削減を行いながら、住民生活を支える公的サービスを維持し、持続可能な業務体制を確立するために必要な機構の改革を行います。

また、最小の経費で最大の効果を上げるため、財政状況と事業効果の分析を行い、事業の重点化・選択化などを図りながら、効果的・効率的な行財政運営を推進します。

III 進め方

1 計画期間

令和8年度から令和12年度の5年間とします。

2 推進体制

(1) 副町長を本部長とする「周防大島町行政改革推進本部」を中心に、全庁的に行財政改革に対する意識共有を図り、積極的な提言と行動により行財政改革を推進します。

(2) 民間有識者等で構成される「周防大島町行政改革推進委員会」に取組状況

を報告し、委員会からの意見を尊重し、行政改革を推進します。

3 推進の方法

周防大島町行政改革大綱の実施を具体的にするため、できるかぎり目標を数値化した年度計画を定めた「行政改革実施計画」を策定し、計画的に推進します。

実施計画の進捗状況については、「周防大島町行政改革推進委員会」に定期的に報告し、意見を求めるとともに、町ホームページ等を活用し、広く住民に公表していきます。

IV 具体的方策 (注：○は実施計画で重点的に取り組む項目。)

1 行政サービスの効率化と質的向上

(1) 職員の意識改革の推進

職員一人ひとりが行政はサービス業との認識を持ち、住民の視点に立ったわかりやすく利用しやすい行政サービスを提供するため、丁寧で気持ちの良い対応ができるよう、窓口利用者に対する満足度アンケート調査を行い、職員の意識改革と接遇改善につなげます。

○接遇の改善

(2) 窓口サービスの充実

住民に一番身近に接する機会の多い総合支所窓口の充実をはじめ、すべての窓口業務において、デジタルツールの活用や住民ニーズによる業務の見直し及び効率化に取り組み、満足度の高いサービスを提供します。

○デジタル技術を活用した窓口サービスの効率化

○公共料金納付方法の拡充

(3) 人材の育成

住民の信頼と期待にこたえるため、時代の変化に的確に対応できる人材の育成と職員の個々の能力向上を目的とし、周防大島町人材育成基本方針に基づき職場内外の研修を計画的に実施し、組織の総合力の向上に努めます。

また、人材育成支援システムの導入に伴い、被評価者の能力や仕事ぶりを評価して本人にフィードバックすることによって、被評価者を成長させ、職員の能力開発や人材育成につなげ、組織力を向上させます。

○人材育成基本方針に基づく職員力の向上

○人事評価の実施

(4) 行政情報共有化の推進

住民が求める町の情報を積極的に分かりやすく提供することは、公平公正で透明性の高い行政を確立し住民と行政の信頼関係を構築する上で重要であることから、住民が求めている行政課題の把握に努め、様々な情報発信ツールを活用して町政情報をわかりやすく発信することで、行政情報の共有化を

推進します。

- 多様なツールを活用した効果的な情報発信

2 住民との協働

(1) 住民との協働の促進

住民主体の発想に基づいて改革を推進していくには、住民と行政との協働によるまちづくりが不可欠です。住民と行政とが対等なパートナーとして、複雑化・多様化する住民ニーズに対応し地域の抱える諸課題へ取り組むため、お互いに情報を交換しあい、連携しあうことで相互理解を深めながら住民や各種団体等との協働意識の醸成を図ります。また、「公民連携（PPP: Public-Private Partnership）」を推進の中心に据え、行政と民間がそれぞれの特性や強みを活かして協力し、地域課題の解決に取り組む体制の構築に努めます。

また、住民の多様な意見を町政に反映し、政策形成過程への住民の参画と透明性の向上を図るため、各種委員会・審議会委員には幅広い分野や年齢層、ジェンダーから適切な人材を選任するとともにパブリックコメント制度を推進します。

- ワンテーマディスカッションの推進
- 指定管理者制度の在り方
- パブリックコメント制度の推進

(2) 地域資源活用の取組

周防大島町は、瀬戸内海に浮かぶ自然豊かな島で、「瀬戸内のハワイ」と呼ばれるほど温暖で美しい景色に恵まれています。その青い海、緑豊かな山々、広がる田畑といった、四季折々の自然の恵み、あるいは歴史的文化資産等の地域資源を最大限活用する仕組みを、行政と住民、各種団体等の協働により作り上げていくことによって、地域の活性化を図ります。

- 住民協働によるまちづくり
- 体験型教育旅行誘致の推進

(4) 男女共同参画の推進

住民一人ひとりの人格が尊重され、尊厳を持って生きることができ、また、男女が自らの意志によってあらゆる場面で活躍し自分らしく輝く社会の実現なしには、協働の社会は創造できないことから、周防大島町男女共同参画プランに基づき男女共同参画を推進します。

- 男女共同参画の推進

3 簡素で効率的な行財政運営

(1) 財政健全化の推進

歳入に見合った歳出を基本に、持続可能な財政を維持していくため、町税等の収納率向上や町有財産の有効活用、さらに、ふるさと納税制度による自

主財源の確保、事業の重点化・選択化などを図りながら国・県等の補助金の効果的運用により経常経費の削減に努めます。

また、周防大島町財務書類4表を作成し公表することにより財政運営の透明性を確保するとともに、周防大島町公有財産適正管理基本方針や公共施設等総合管理計画に基づき公有財産の適正な管理を推進し、財政のマネジメント強化を図ります。

- 財政健全化の推進（財政指標の改善）
- 人件費の適正化
- 公共施設の規模適正化
- 公用車の適正配置
- 補助金等の見直し
- 町主催イベントの在り方の見直し
- 適正な自主財源の確保
（国保・固定・町県民・軽自税、介護保険料、住宅使用料）
- 処分可能な未利用財産の売却等の促進
- 統一的な基準による地方公会計財務書類の整備

(2) 行政評価システムの活用

予算編成に連動した行政評価システムを最大限活用し、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルに基づき効率的な行政経営を行い、限られた財源・人材の有効活用を図ります。

- 行政評価システムの活用

(3) 受益者負担の適正化

使用料・手数料等の受益者負担について、公平性の確保と応益負担を原則とし、社会情勢に配慮しつつ住民の理解を得ながら適正な料金改定を行います。

- 受益者負担の適正化

(4) 適正な定員管理

職員数は、定員適正化計画以上の減少が進んでいる状況にあり、年代間による職員数の格差が生じないように計画的な職員採用や、災害対応等の危機管理体制を視野に入れた、定員適正化計画に基づいた適正な定員の確保に努めます。

- 適正な定員の確保

(5) 公共工事等のコスト削減

入札・契約制度について、競争性や公平・公正性の向上に努めるとともに、建設DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用し、事務の効率化を図るとともに、地域の実情に応じた入札方式を検討し、公共工事等のコスト削減を図ります。

- 公共工事等のコスト削減

(6) 効率的で柔軟な組織づくり

地方分権改革の動向や複雑化・多様化する地域の新たな行政需要に柔軟かつ確実に対応できる組織とするため、周防大島町行政改革推進本部において検討を行い、第5次行政改革大綱の計画期間中に、平成16年の合併当初からの分庁方式や組織・機構の見直しを実施します。

○時代の変化に対応できる組織・機構の見直し

○職員提案制度の推進

(7) スマート行政の推進

町の手続きをより簡単で便利、迅速なものにするため、デジタル技術を活用し、窓口での繰り返し作業や待ち時間、書類の負担を軽減するとともに、役場内部の事務を見直し、定型業務を可能な限り自動化します。これにより職員が相談対応や重要な業務に時間を割けるようにします。また、手続きの流れを整理し、ムダや二度手間を排除する改善を進めます。

さらに、デジタル化は機器や仕組みを入れるだけでは進まないため、職員の「デジタルを使いこなす力」を高め、役場の中でデジタル化を進められる人材を育てます。

○業務のやり方を見直しデジタルで手続きを簡単にする取組

○住民サービスの質的向上に向けた職員のデジタル対応力の強化

(8) 下水道事業の経営効率化

窓口業務を委託している周防大島町上下水道料金お客様センターと連携し、下水道使用料の収納率向上を図ります。

また、公共下水道事業においては、未普及対策工事の早期完成・早期共用開始に努め使用料収入の確保を図るとともに、将来的な全体計画の見直しを検討します。

○下水道使用料の収納率の向上

○公共下水道等の加入率の向上

(9) 病院事業の経営効率化

自治体病院として、地域住民の健康の保持と増進を図り、公共の福祉の増進を目指して地域医療の向上に努めながら経営の健全化に取り組みます。

○病院事業再編計画の実行

○給食業務委託の検討